TOSHIBA

EH99851001-3

東芝パッケージエアコン〈蓄熱ユニット〉

据付説明書

[工事業者様用]

形名

ROP-CT53

●このたびは東芝パッケージエアコンをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。
●据え付けの前に、この説明書をよくお読みになり正しい据え付けを行ってください。

お知らせ

●このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系冷媒（R410A）を使用しています。
●本説明書は蓄熱ユニットの据付工事方法を記載してあります。
●室内ユニットの据え付けは室内ユニットに付属の据付説明書をお読みください。
●室外機の据え付けは、室外機に付属の据付説明書をお読みください。

もくじ

安全上のご注意 …… 2
エアコンの据え付けについて …… 4
据付場所の選定 …… 5
1. 蓄熱ユニットの搬入 …… 6
2. 蓄熱ユニットの据え付け …… 6
3. 冷媒配管 …… 7
4. 電気配線 …… 10
5. 応用制御 …… 12
6. 蓄熱槽への給水・排水 …… 13
7. 試運転 …… 15
8. お客様への引渡し …… 17

付属部品

部品名	個数	形状	用途	部品名	個数	形状	用途
据付説明書	1	（本紙）	（お客様に必ず渡してください。）	プラグ	1		基準水位口閉塞用
保護ブッシュ	2		配線保護用	ニップル	1		排水バルブ接続用
貫通部保護材	2		貫通部保護用	タイマー銘板	1	——	指定の場所に貼付してください。
排水バルブ	1		排水口の開閉用	電源銘板	1	——	指定の場所に貼付してください。

日本国内専用品
Use only in Japan

安全上のご注意

●据付工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ据え付けてください。

●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は右の内容になっています。

●記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

●据え付け工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

■表示の説明

⚠警告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷(※1)を負うことが想定される内容”を示します。
⚠注意	“取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷(※2)を負うことが想定されるか、または物的損害(※3)の発生が想定される内容”を示します。

※1:重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
※2:軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
※3:物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

⚠警告

据え付けは販売店、または専門業者に依頼する
ご自分で据え付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。

冷媒充填・回収作業については、第一種フロン類充填回収業者に依頼する
冷媒充填・回収作業には、専門の知識と技術が必要です。不備があると冷媒ガスが漏れる原因になります。

据え付け工事は、R410A 用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に行う
専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると破裂・けがの原因になり、また、水漏れや感電・火災の原因になります。

指定冷媒(R410A)以外は使用(冷媒補充・入替え)しない
室外機の装置銘板あるいはサービスポート近傍に明示している指定冷媒以外を使用した場合、機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。

据付工事・移設再設置は、据付説明書に従って確実に行う
特に適用床面積に注意を払って、守ること。据え付けに不備があると、冷媒サイクルの異常や水漏れ、感電、火災などの原因になります。
※適用床面積については、カタログを参照してください。

冷媒ガスをみだりに大気中に放出しない
フロン類を大気中に放出することは法律により禁止されています。

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、室外機の落下により、けがの原因になります。

台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行う
据え付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。

据え付け終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。

電気工事(アース工事を含む)は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。

アースを必ず取り付ける
法律による D 種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

据え付けや移設時、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない
空気などが混入した場合、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。

据付作業では運転する前に、次のことを確認する
・配管接続は確実に取り付け、漏れがないこと
・サービスバルブの弁が開いていること
サービスバルブが閉まった状態で圧縮機を運転すると、異常高圧となり圧縮機などの部品の破損の原因になります。
また接続部で漏れがあると空気を吸い込むなどで更に異常高圧となり破裂、けがの原因になります。

ポンプダウン作業では冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。

設備工事完了後、フレア接続部を中心に冷媒ガスが漏れていないことを確認する
火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

⚠ 警告

漏電遮断器を取り付ける
漏電遮断器が取り付けられていないと感電の原因になることがあります。

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ設置しない
万一ガスが漏れて室外機の周囲に溜まると、着火の原因になることがあります。

⚠ 注意

フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。

据え付け作業のときは手袋（※）を着用する
着用しないと部品などにより、けがをする原因になります。（※ 軍手など厚手の手袋）

溶接作業を行う場合は、冷媒の漏洩や残留がないか確認する
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

据え付けや移設を行う場合、ガス、石油燃焼器、ストーブ、ファンヒーター、コンロなどの火元（着火源）となるものは十分遠ざける
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

エアコンの据え付けについて

このエアコンはオゾン層を破壊しない HFC 系冷媒（R410A）を採用しています。

- R410A 冷媒は従来の冷媒に比べ圧力が約 1.6 倍高くなり、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすくなります。また、R410A 冷媒の採用に伴い冷凍機油も変更しており、据え付け工事のときに水分・ゴミ・従来の冷媒や冷凍機油などが R410A 冷媒エアコンの冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 冷媒や冷凍機油の混入を防ぐため、本体チャージ口や据え付けツールの接続部分のサイズを従来冷媒用と違えており、下記の R410A 冷媒用専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないよう施工してください。

必要器材および取り扱い上の注意点

据え付け工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。
これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。
記号の説明　◎：新規に準備（R410A 専用として R22・R407C と使い分けが必要）　△：従来工具を流用可

使用する機器	用　途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	◎新規に準備、R410A 専用
チャージングホース	および運転チェック	◎新規に準備、R410A 専用
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可（冷媒充填ハカリによること）
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	◎新規に準備
真空ポンプ	真空乾燥	逆流防止アダプタを取り付ければ使用可
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△ R22（現行品）
フレアツール	配管のフレア加工	△寸法の調整で使用可
ベンダー	配管の曲げ加工	△ R22（現行品）
冷媒回収機	冷媒の回収	◎ R410A 専用
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	◎φ 12.7, φ 15.9 用は専用
パイプカッタ	配管の切断	△ R22（現行品）
冷媒ボンベ	冷媒充填	◎ R410A 専用 識別：冷媒名記載
溶接機・窒素ボンベ	配管の溶接	△ R22（現行品）
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△ R22（現行品）

冷媒配管について

このエアコンの据え付けには、R410A 冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

■ R410A 冷媒用配管キットを使用する場合

R410A 冷媒エアコンの発売に伴い、エアコンの据え付けに使用する配管キットには、配管の梱包箱に冷媒種・対応冷媒名・配管肉厚が表示されています。このエアコンの据え付けには、必ず、

冷媒種：2 種、対応冷媒名：R410A

と表示されている配管を使用してください。（適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約 1m ごとに記号化して表示してあります。この表示が「②」のものを使用してください）

また、フレア加工、フレアナットも R410A 冷媒用のものが必要ですが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

■ R410A 冷媒用配管キットを使用しない場合

1. 従来の配管キットを使用する場合

- 適用冷媒種の表示のない従来の配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ 6.4, φ 9.5,φ 12.7 は 0.8mm、φ 15.9 は 1.0mm のものを使用してください。従来の配管キットで、配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

2. 一般の銅管を使用する場合

●銅管は JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」の C1220 タイプで、内部の付着油量 40mg ／ 10m 以下、配管肉厚はφ 6.4, φ 9.5, φ12.7 は 0.8mm、φ 15.9 は 1.0mm のものを使用してください。
上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。

3. フレアナットおよびフレア加工

●フレアナット・フレア加工も従来冷媒用と異なります。
液側フレアナットはエアコン本体付属のもの、または R410A 用を使用してください。
ガス側フレアナットは穴付き(特殊仕様)ですので、必ず本体付属品を使用してください。

●フレア加工は『冷媒配管の接続』の部分をよく読み、加工してください。

据付場所の選定

⚠ 警告

●据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行うこと
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
蓄熱ユニット床面は耐荷重 8200N/m^2（840kgf ／ m^2）以上を確保してください。
不可の場合は梁を渡し、荷重を分散して建物の許容値以内に収めてください。

⚠ 注意

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へ設置しないこと
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。

下記の条件にあった場所にお客様の了解を得てから据え付けてください。

●水平に据え付けできる場所
●保守点検を安全に行えるサービススペースを確保できる場所
●排水されたドレン水が流れても問題ない場所

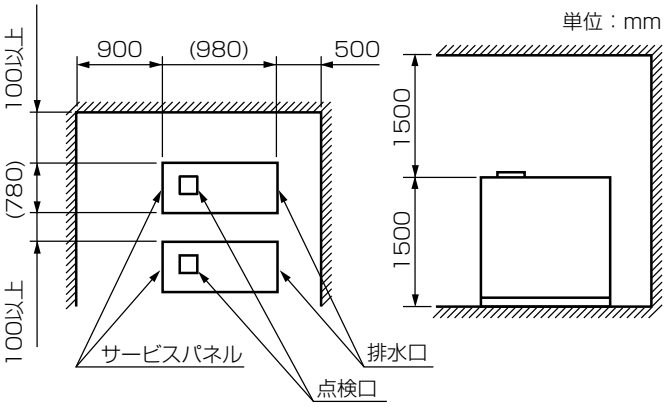
以下のような場所は避けてください。

●塩分の多い場所（海岸地区）や、硫化ガスの多い場所（温泉地区）
（ご使用の場合は特別な保守が必要です。）
●油・蒸気・油煙や腐食性ガスの発生する場所
●有機溶剤を使用している場所
●高周波を発生する機械がある場所

据付スペース

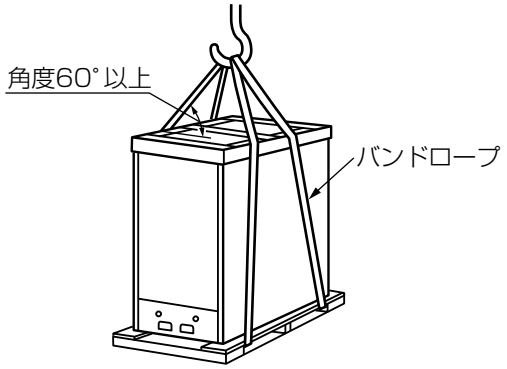
蓄熱ユニットの周囲には、右図のサービススペースを確保してください。

注）①水槽内部の熱交換器を上面より入れ換えるスペースを確保してください。
確保できないときは、本体の移動ができるように通路を設けてください。
②氷の有無（水槽内の目視確認）は、蓄熱ユニット上面からしかできません。脚立などで確認できる場所への設置をおすすめします。



1 蓄熱ユニットの搬入

●できるだけ梱包のまま据え付け位置まで搬入してください。
●蓄熱ユニットをクレーンにて吊り上げる場合は、梱包のまま必ず４本ロープ（バンドロープ）掛けとし、蓄熱ユニットに貼り付けてある吊り上げ銘板にしたがって下図要領で行ってください。バンドロープは 6m 以上のものを２本使用してください。



お願い

●ワイヤーロープでのロープ掛けは、製品にキズを付けますので絶対に行わないでください。
●開梱後のロープ掛けによる吊り上げ移動は、キャビネットが変形しますので絶対に行わないでください。梱包のまま４本ロープ掛けで吊り上げてください。
●ユニットが傾かないよう安全を確認し、静かに吊り上げてください。（バンドロープ長 6m 以上）

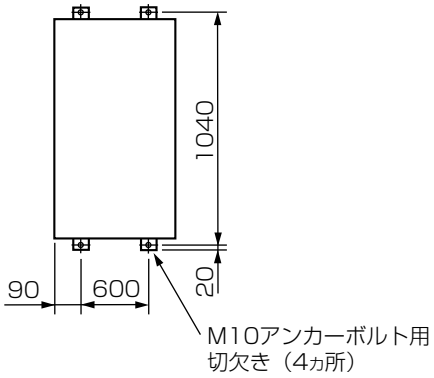
2 蓄熱ユニットの据え付け

⚠ 警告

据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行うこと
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。

台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行うこと
据え付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。

●蓄熱ユニットが傾いたり、突風や地震などで倒れないよう基礎工事を十分に行ってください。



ドレン水・排水について

蓄熱ユニットは、運転しているときにドレン水が排出されます。水はけのよい所を選ぶか排水溝を設けてください。また、通路の上方に設置すると水滴が落下することがありますので避けてください。（特に冬季において氷結して足を滑らせる恐れがあります）
蓄熱ユニットは、水槽内の排水作業を行いますので、必ず排水溝を設けてください。なお、通路の上方に設置する場合など集中排水が必要なときは、２次ドレンパン（現地準備品）を取り付けてください。

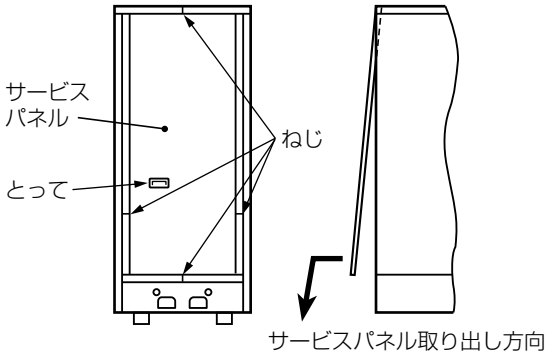
3 冷媒配管

⚠ 警告

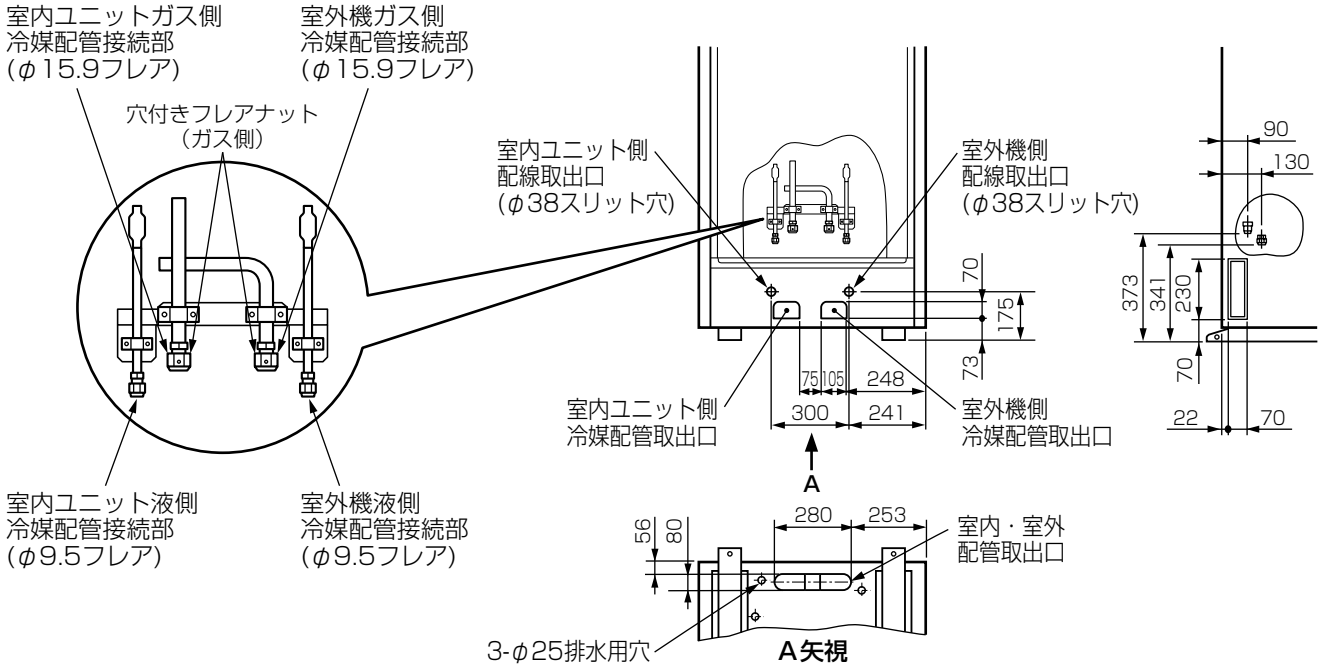
据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気を行うこと
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

据え付け終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認すること
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

●配管接続前に、右図に示すサービスパネルを固定しているねじをはずして、とってを持って手前に引き、そのまま斜め下方に引き出すようにして取りはずします。
（取り付けるときは、逆の手順で行ってください）

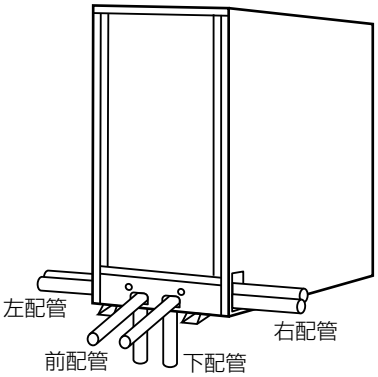


配管の接続位置



配管取り出し方向

①配管取り出し方向は４方向に取り出し可能です。
②接続配管の曲げ加工はベンダーを使用してください。

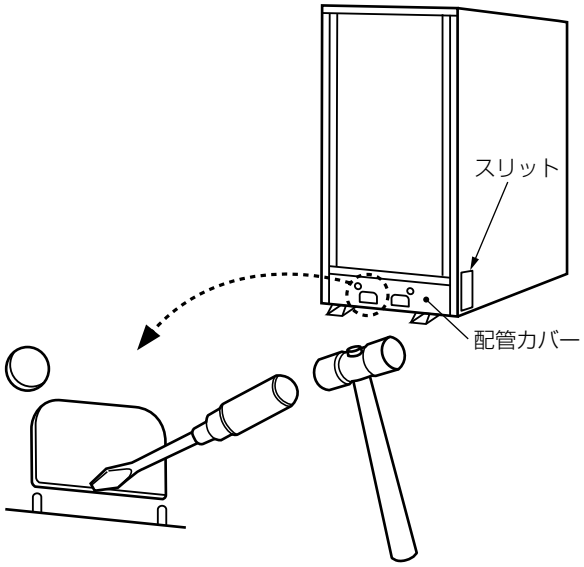


3 冷媒配管（つづき）

配管カバーのノックアウト方法

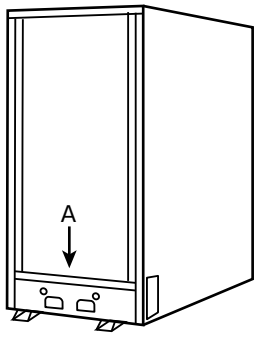
●図のように配管カバーは筐体から取りはずさずに、付けたまま行なうと簡単にノックアウト穴の打ち抜きができます。
ノックアウトを行なうときは、ガイドラインに沿って3箇所のつなぎ部のうち下側1箇所をドライバーで打ち抜くことにより、簡単に手で取ることができます。

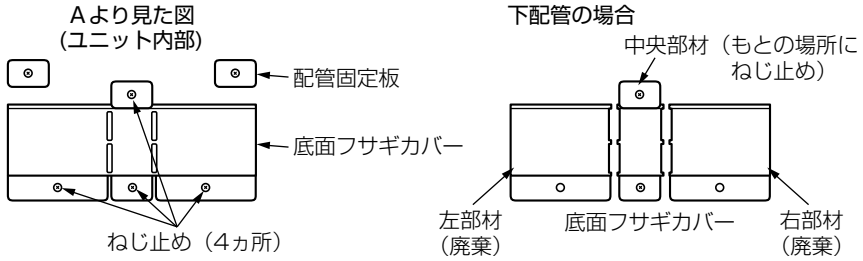
●ノックアウト穴打ち抜き後はバリ取りをして、配線や配管保護のために、付属の保護ブッシュおよび貫通部保護材を取り付けてください。
また、配管接続後は必ず配管カバーを取り付けてください。配管カバー下部のスリットを切り取ることで容易に取り付けられます。



冷媒配管の接続

前配管の場合は、配管カバーのノックアウト部を抜いてください。
下配管の場合は、底面フサギカバーを取りはずしスリットを切り取って中央部材のみをもとの場所にねじ止め（2本）します。
右配管及び左配管の場合は側板のスリットを切り取って穴を開けます。





■接続配管

	液側 (mm)		ガス側 (mm) 70m以下	
	外径	肉厚	外径	肉厚
配管仕様	9.5	0.8	15.9	1.0
フレアナット	穴なし		※穴付き	

※ガス側フレアナットは穴付き（特殊仕様）ですので必ず本体付属品を使用してください。

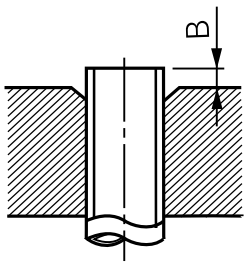
■フレア加工

①**パイプカッターで配管を切断します。**
バリは必ず取ってください。（ガス漏れの原因となります）

②**フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。**
液側フレアナットは本体付属のもの、または R410A 用のものをご使用ください。
ガス側フレアナットは穴付き（特殊仕様）ですので、必ず本体付属品を使用してください。
R410A 用のフレア加工寸法は、従来の R22 用とは異なります。R410A 用に新規に製作されたフレアツールをおすすめしますが、従来のツールでも次ページの表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

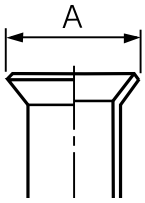
■フレア加工の銅管出し代：B（単位：mm）

配管外径	リジット（クラッチ式）の場合		インペリアル（ウイングナット）の場合
	R410A 用ツール使用時	従来ツール使用時	
9.5	0 ～ 0.5	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0
15.9			2.0 ～ 2.5



■フレア加工の銅管出し代：A（単位：mm）

配管外径	A $^{+0}_{-0.4}$
9.5	13.2
15.9	19.7



※従来のフレアツールを使って R410A 用のフレア加工をする場合は、R22 のときより約 0.5mm 多めに出せば規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は銅管ゲージを使用すると便利です。

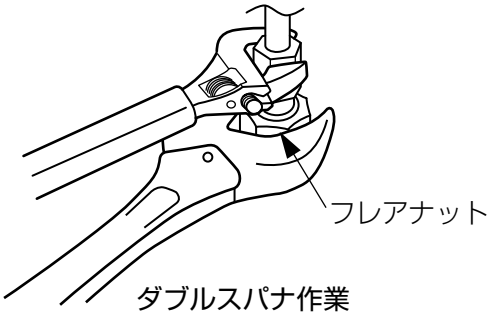
接続部の締付

●蓄熱ユニットの配管接続は必ずダブルスパナにて行ってください。

●締付トルクは下表によってください。

（単位：N･m）

配管外径	締付トルク
9.5 mm	33 ～ 42（3.3 ～ 4.2kgf･m）
15.9 mm	68 ～ 82（6.8 ～ 8.2kgf･m）



ダブルスパナ作業

お願い

トルクをかけ過ぎますと、据え付け条件によってはナットが割れる場合があります。

●配管接続部は据え付け工事終了後、窒素で必ずガス漏れ検査を実施してください。

● R410A は R22 に比べ、圧力が約 1.6 倍高くなります。従って、室内・室外・蓄熱の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締め付けてください。接続に不備がありますとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

●冷房運転時に、蓄熱ユニットと室内ユニット間の液冷媒配管が低温（10 ～ 0℃）になります。そのため、液冷媒配管への配管断熱は、ガス冷媒配管と同様にフレア接続部などへも十分に行ってください。**万一、配管断熱が不十分な場合、露が付き、思わぬ漏水の原因になることがあります。**

●配管長・追加冷媒・エアパージは、室外機の据付説明書に従ってください。

4 電気配線

⚠ 警告

電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用すること
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定すること
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。

アースを必ず取り付けること
法律による D 種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

⚠ 注意

漏電遮断器を取り付けること
漏電遮断器が取り付けられていないと感電の原因になることがあります。

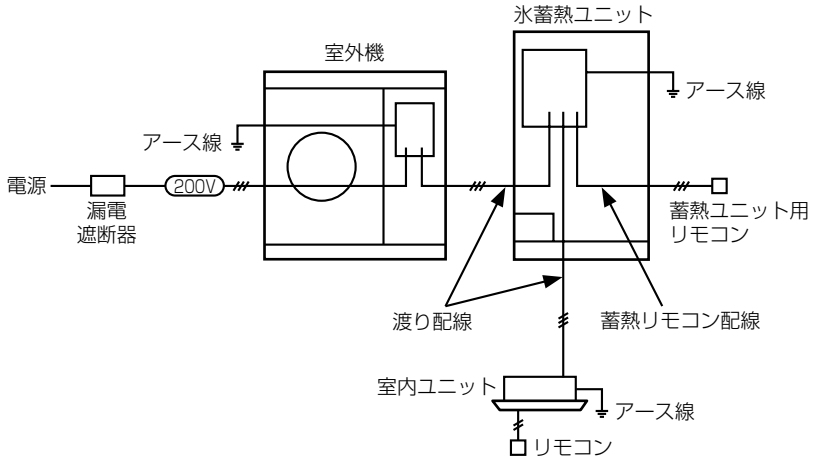
お願い

- リモコン配線用端子板（Ⓐ, Ⓑ, Ⓒ）には 200V 電源を絶対に接続しないでください。（故障します。）
- 電気配線は配管に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。

電源仕様

- 渡り配線仕様と蓄熱ユニット用リモコン配線仕様は下表にしたがってください。
  容量が小さいと過熱・焼損の発生原因となり危険です。

渡り配線仕様	蓄熱ユニット用 リモコン配線仕様	アース線仕様
単線φ1.6mm	VFS　3芯 0.3mm^2（200mまで）	単線φ1.6mm



蓄熱リモコン配線

- 蓄熱ユニット用リモコン配線は有極性の3芯です。

渡り配線

- 渡り配線は有極性の3芯です。

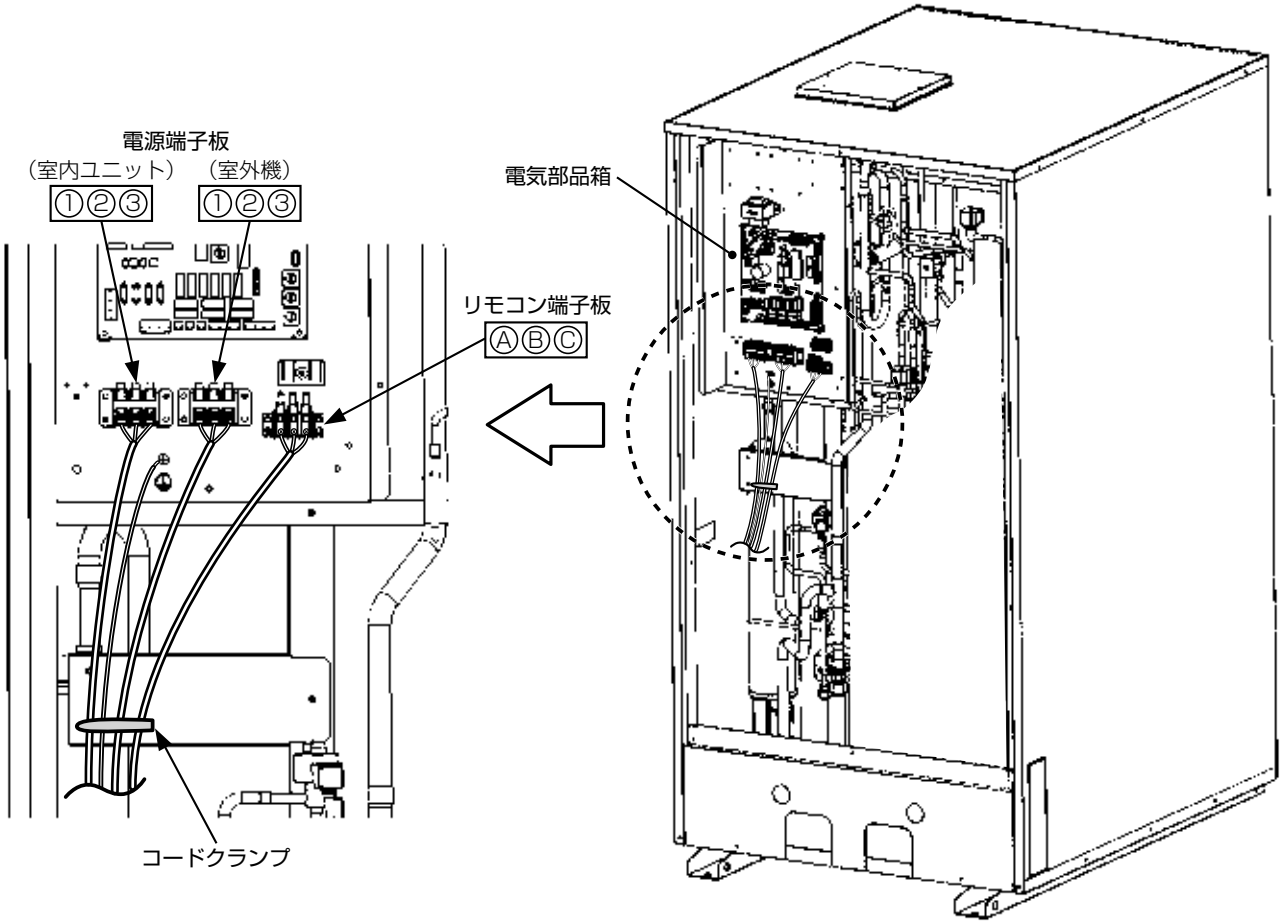
- 室内ユニットのリモコン配線仕様は、室内ユニットの据付説明書をご覧ください。
- 室内ユニットの制御基板上の CN61 を使用し、応用制御を行う場合 [別売コネクタ組立] CCB-KBCN61-CT を使用してください。

配線接続

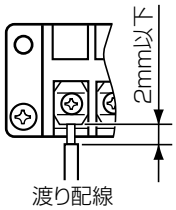
お願い

●配線は必ず端子番号を合わせてください。接続を正しく行いませんと故障の原因となります。
●リモコンの回路は低電圧回路です。内線規程 400-8 の小勢力回路の規定に従ってください。

●サービスパネルをはずします。（ねじ４本）
●電気部品カバーをはずします。（ねじ２本）
●電気部品箱の端子板に渡り配線と蓄熱ユニット用リモコン配線を接続します。
●端子板のねじはしっかりと締め、コードクランプで配線を固定してください。
（端子板の接続部にテンションを掛けないようにしてください）



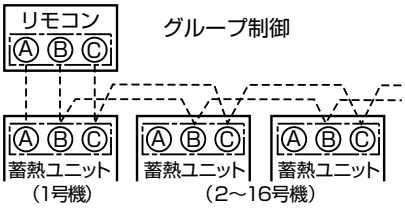
端子板に接続する配線は、下図の寸法を確保してください。



5 応用制御

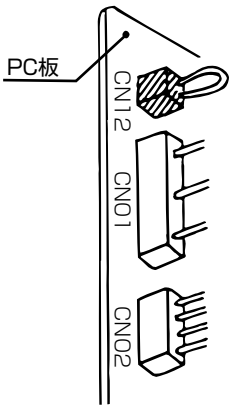
グループ制御のしかた

1個のリモコンで最大 16 台までグループ制御できます。（グループ運転する蓄熱ユニットの電源の相順序を必ず合わせてください）



●リモコンを蓄熱ユニット1号機の A，B，C 端子に記号を合わせて接続します。
●蓄熱ユニット1号機と2号機、2号機と3号機、以下最大 16 号機までの B，C 端子間を配線します。
●リモコンアドレス（SW01）のロータリー SW つまみを動かし、1号機を1、2号機を2、3号機を3、以下最大 16 号機（16）まで設定します。

●1号機以外の2号機から最大 16 号機までの PC 板上のコネクタ（CN12）を必ずはずします。
（誤配線による故障を防止するためです）



6 蓄熱槽への給水・排水

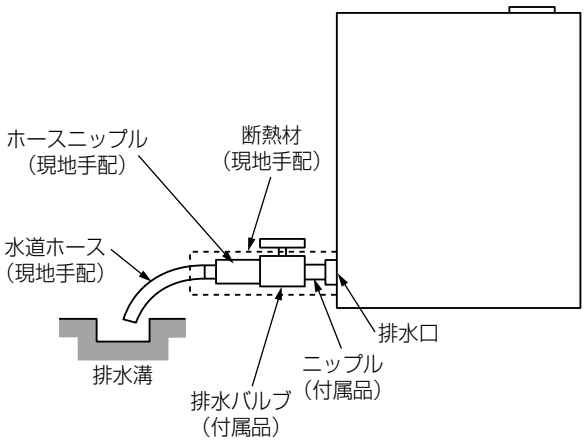
お願い

●給水は市水、上水または同等の水質を有する水を使用してください。（クーリングタワー水や暖房用温水などは絶対に使用しないでください。）
●給水の水温は 20℃以下を目安としてください。ビルの壁に沿わせた水道管等では、夏場に思わぬ熱さの水が出てくることがあります。このような場合は、しばらく水を流し冷たくなってきてから給水をしてください。
●初回給水時には水が濁っていることがありますので、しばらく水を流してきれいな水になってから給水をしてください。
●初回給水時の水温が高い場合、製氷運転で水温が下がったとき、水の密度変化により、水位が大幅に低下します。やむを得ず高い温度の水を入れる場合は、試運転時に製氷運転で水温を 20℃程度まで冷やした後、再度水を補給してください。（水の補給は氷のない状態（水温 10℃以上）で行ってください。）
●１年に１回、暖房シーズン中に水槽内の汚れおよび水量の確認をしてください。水が減っている場合は、水を補給してください。また、水の汚れがはげしい場合は水を交換してください。

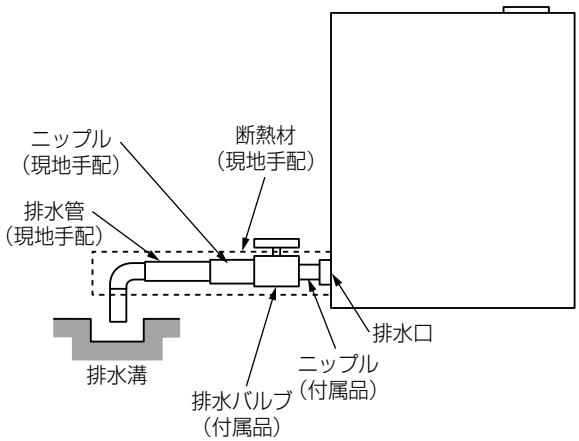
水配管

●排水管を必ず施工してください。（給水は水道ホースで行なうため配管工事は不要です）
（1）排水口に付属のニップル及び排水バルブを取り付けます。
（接続時には必ず市販のシールテープを使用してください）
（2）排水バルブから排水溝までの間は、据付場所の条件に合わせた方法で配管工事を行ってください。
排水管には断熱保温などの凍結防止策を必ず行ってください。

例1. 水道ホースによる排水



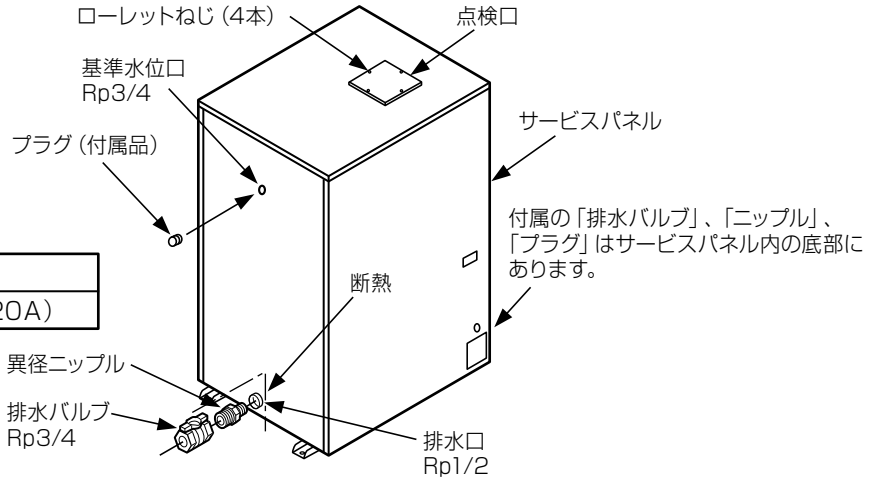
例2. 排水管による排水



6 蓄熱槽への給水・排水（つづき）

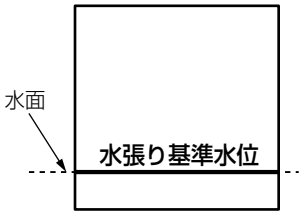
給水方法

必ず、排水管の施工後、排水バルブを閉めて基準水位口のキャップをはずしてから給水してください。



水　配　管　口　径	
排水バルブ	Rp3／4（20A）

（1）ローレットねじ（4 本）をはずし、点検口を開けます。
（2）点検口から水道ホースを入れ、基準水位口から水が出るまで給水してください。
　（一般水道圧、13A のホースで約 40 分程度かかります。）
（3）基準水位口から水が出だしたら、給水を止めて水が出なくなるまで放置してください。
　（水面が水槽内の水張り基準水位線にあることを点検口から確認してください。）



（4）基準水位口に付属のプラグを取り付けてください。
　（接続部には必ず市販のシールテープを使用してください。）
（5）点検口をもとどおりに閉めてください。（ローレットねじ 4 本）

排水方法

排水バルブを開き、排水溝へ排水してください。

凍結防止について

冬季に電源を OFF した状態で放置すると水槽内の水が凍結し、水槽が破壊する恐れがあります。電源は年間を通して常時 ON としてください。電源を OFF にする必要がある場合には、排水バルブを開けて水槽内の水を完全に抜いてください。
※排水バルブが凍結したときは、40℃程度のお湯をかけて溶かしてください。

お願い

給水は市水、上水または同等の水質を有する水を使用してください。（クーリングタワー水や暖房用温水などは絶対に使用しないでください）

7 試運転

●据え付けが完了しましたら、お客様に引き渡す前に試運転を実施してください。
●室外機の電源は起動時の圧縮機保護のため、運転開始の 12 時間以上前に漏電遮断器を投入してください。

蓄熱試運転

お知らせ

基準水位口、排水バルブ、点検口を確実に閉じてください。閉じていないと水不足による異常運転で、故障の原因になります。

（1）蓄熱ユニットに接続された蓄熱ユニット用リモコン（RBC-AZ1）の 運転／停止 スイッチを押し、運転ランプ LED（赤）の点灯を確認してください。
運転切換 スイッチで運転モード「冷房蓄熱」または「暖房蓄熱」を選択します。
（2）運転モード選択後、約 2 秒たってから、蓄熱ユニット用リモコンの 試運転 スイッチを 5 秒以上押すと試運転モードになります。
水温表示部には冷房蓄熱時「L」、暖房蓄熱時「H」、残時間「12 時間」が表示されます。
（3）グループ運転の場合、▼ ▲ ボタンを押すことにより試運転をしたい蓄熱ユニットを選択できます。
（「L」または「H」の場合、接続ユニット全部が運転します）
（4）試運転モードは自動的に切タイマー 12 時間でセットされ、試運転を開始します。ただし、蓄熱ユニットの水槽の水が基準水位未満の場合、運転後しばらくして室外機が停止します。（試運転モードを解除して、点検スイッチを押すと点検コード“Fb”が表示されます。）
（5）12 時間経過したとき、または 運転／停止 スイッチを押した場合、蓄熱試運転が終了します。
（6）2 台目以降は、上記（3）でユニット番号を切り換えます。

＜注記＞
蓄熱試運転中に保護装置動作などの異常が発生した場合は、室外機が停止します。
①蓄熱ユニット制御基板上の LED（赤）が点灯し、7 セグメント LED 表示に点検コードを表示します。
② 試運転 スイッチを押すか 運転／停止 スイッチを押して試運転モードを解除します。

お知らせ

夏期の試運転において、外気温度および水温が高い場合、運転圧力が上昇し冷房運転・冷房蓄熱運転ができないことがあります。
この場合、冷房蓄熱モードで室外機ガス側バルブを全開状態から閉方向に開度を調整し、運転圧力を下げながら水温が 15℃以下になるまで運転を行ってください。
運転完了後は、ガス側バルブを全開状態にもどしてください。

7 試運転（つづき）

蓄熱利用冷房試運転・通常冷房試運転

（1）蓄熱ユニット用リモコンの運転切換を「冷房蓄熱」とし、タイマー「切」にして 運転／停止 スイッチを押します。（運転ランプ LED（赤）が点灯します）

（2）室内ユニット用リモコンの 点検 スイッチを 4 秒以上押します。（表示部に「試運転」と表示され試運転モードとなります）

（3）室内ユニット用リモコンの 運転／停止 スイッチを押し 運転切換 スイッチで運転モードを「冷房」にします。

- ●蓄熱ユニットの水槽水温は 10℃以下ですか。
  水温が 10℃以上の場合は蓄熱利用運転を行いません。
  水温は蓄熱リモコンの水温表示部で確認できます。
- ●蓄熱利用冷房運転中は蓄熱ユニット用リモコンに「利用中」を表示します。
- ●蓄熱利用試運転と通常試運転の切り換えは、蓄熱ユニットの水槽水温または外気温度によって自動的に切り換わります。切り換えのとき、一度、圧縮機が停止しますが異常ではありません。

通常暖房試運転

（1）暖房の場合は蓄熱ユニット用リモコンの 運転／停止 スイッチを押し、蓄熱ユニットの運転を停止させます。

（2）室内ユニット用リモコンの 点検 スイッチを 4 秒以上押します。（表示部に「試運転」と表示され試運転モードとなります）

（3）室内ユニット用リモコンの 運転／停止 スイッチを押し、 運転切換 スイッチで運転モードを「暖房」にします。

製氷確認時の留意事項

冷房蓄熱運転を行ったときの製氷時間は下記の通りです。

- ●氷ができ始めるまでの時間：約 1 時間
  （初期水温 15℃程度のとき）
- ●製氷完了までの時間：約 5 時間

お知らせ

夏場などで高水温（15℃以上）から冷房蓄熱運転を行った場合、氷ができ始めるまでに 2 ～ 3 時間かかることがありますが、圧縮機保護運転を行っているためですので故障ではありません。

8 お客様への引渡し

●「保証書」「取扱説明書」「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
　保証書には必ず所定事項（★印箇所）をご記入のうえお客様に渡してください。
●「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ引渡しをお願いします。

フロン排出抑制法に基づく点検実施のお願い

本製品を所有されているお客様は、フロン排出抑制法に基づく点検を実施してください。
“点検記録簿”には、機器を設置したときから廃棄するときまでのすべての履歴を記載してください。
費用等点検に関する詳細につきましては、お買い上げの販売店または東芝エアコン空調換気ご相談センターにお問合せください。
「点検記録簿」に関しては、下記サイト内にありますので、ダウンロードしてご使用ください。
日本冷凍空調設備工業連合会のホームページ：http://www.jarac.or.jp/

MEMO

東芝キヤリア株式会社

〒416-8521　静岡県富士市蓼原 336 番地

SN:EH99851001-③